

中齋塾東京フォーラム
平成 31 年度 第 4 回講話

平成 31 年 4 月 13 日
於 湯島聖堂

おはようございます。吉良さんの話を聞いていたら令和の和が浮かびました。和やか、ほのぼのとか、良いですね。吉良さんのさっきの話はとっても和やかで、ほっとして、それで皆から声もかかるし、笑い声も起きる。とても良いことだと思います。出だしがすごく和やかになって、良い心持ちで話がきりだせます。

今日は詩吟を致しましたら、そのまま太宰府へ参ります。太宰府天満宮の近くに住んでいる知人に連絡を取ったところ、坂本八幡宮に観光客が押し寄せていると言います。新聞等々で元号についてだいぶ報道していますので、大賑わいです。それで連絡したら、下見をしてきたという話がありました。今日終わったら直ぐ、娘と一緒に羽田から太宰府へ行きます。明日は太宰府天満宮で、日本奉賛吟詠会の吟詠の奉納があります。その前夜祭が今晚 6 時からありまして、間に合うように行きます。佐藤一斎が作った「漫言」の独吟をいたします。この間、私が出しました『陽明学シリーズⅦ佐藤一斎』の冒頭に、漫言の説明が書いてあります。

石川忠久先生の話をしてします。石川忠久先生はご存じのとおり、今回の元号考案を委嘱された学者のお一人です。今ちょっと具合が悪くて入院をしたとありましたが、確認したら退院されていました。宮本さん、回復されたのですよね。また来てもらってお話してもらおうと思っています。今度は元号考案を委嘱された先生はこういう顔をしているのかと、こういう話しぶりかねということでも来てもらおう、といっても向こうの部屋から、こっちに歩いて来るだけですが、話をしてもらえば良いと思う。この中齋塾フォーラムは元号に関係する先生方が多いなと思います。

この間、曾我先生のセミナーにお邪魔したら、若いお二人が参加していました。今回の中齋塾フォーラムにも若いお二人がこられました。論語の話ではなくて、新聞や判断の仕方はどうすればよいかとか、そういうところに気が向いてこられたなと理解しているけど、もうちょっと違う要求があったら言っと思ってください。そういう話もするからと。それで曾我先生のセミナーでピリッときたのが、会社を経営している方、いま政府は働き方改革をやりだした。残業や有給休暇をとれないと 30 万円の罰金である。まったく安倍さんのパフォーマンス極まれりで酷いことやるものだと思います。日本人は働くことは美德で良いことであるということで育て生涯を終える。東洋の、特に儒教圏の中の特異な文化を

持つ日本はそういう民族です。西洋は、働くことは罪の償いの為に働かされる。だから働きたくないわけです。日本人は働きたいと思って働くが、西洋は働きたくないと思って働くから、物の考え方が根底から違う。違うものの理由の一つに、例えば雅な宴の中で鈴虫が鳴いている。鈴虫の音を聞くと、季節の移ろいを感じる感性が日本人にはある。外国人が聞くと、雑音がうるさいなと聞く。まるで感覚が違う。日本は他の国々と比べると色々な部分で違っている。人間全て同じかという、最低限のことは皆同じと言えるけれども、違うことは多々あります。例えば、いま元号は日本にしか残ってない。新聞を見ていたら、自分の人生と元号を置き換えながら、平成の人間はとか、昭和の人間はとかいう訳です。昔は、明治は遠くになりけりって言っていたけども、昭和は遠くになりけりになってきているわけで、そういう言葉を聞くと、何となく自分の時代がふっと浮かんできます。

今ここまで雑多な話をした理由を言います。今日の論語素読は難波さんでした。論語素読の練習と打ち合わせで少し早めに来ています。それで論語素読の話をしようと思ったら、私は年に4回皆様に便りを出していますが、その中に令和を説明している言葉があります。「天が日本をよい国になるように導き、国民が素晴らしいと唱和する」と書いたのを読まれて、総合的直観力というのは、これかと思ったというのが最初の話で、論語素読の練習はどこかにいってしまいました。

学問は、縦の学問と横の学問があります。縦の学問は哲学。「我れ如何に生きるべきや」それを考えるのには歴史をよく見ていく。歴史を自分の頭の中にしっかり植え込んでいく、咀嚼するというのかな。縦の学問は、自分の生きる基本的なことを考える哲学だと思えばいい。哲学は、何故この世に生まれたのだろうかということを考えていく。哲学は何か難しそうに思うけれども、そんな難しいことではなくて、私は何で生まれたのだろうかということを考えて考え抜くことが、それなりに何か、ほっとしたものが生まれてきます。それが縦の学問。横の学問は、雑多な知識、横の知識。どんどん増やせば増やすほどいい。どんどん横の知識を増やしていくと、雑多が溜まり、それが縦の学問と融合したときに知恵が生まれます。私はこの為に人間として生まれたのか。私の使命はこれなのかということが、はっと分かる。はっと分かることが人間にとって、とても必要なことです。総合的直観力は、はっと分かるものです。はっと分かるを別の言葉で言うと、悟ったという言葉になります。悟りは、はっと分かること。総合的直観力は、はっと分かるもの。その総合的直観力を自分のものにするためには、縦の学問と横の学問を一生懸命しなきゃならないけれども、横の学問は常に変えていかなきゃならない。たまたま今日『伝統と革新』という雑誌を持ってきたのですが、その中で曾野綾子さんが、文化は続けなきゃいけない。文化というものはずっと続けて伝統を守りましょう。ただ同時に、「革新」常に新しい物を見つける。見届けることをしなきゃいけませんねと言っていました。この『伝統と革新』は、二松学舎の同期が責任者です。彼は万葉集の専門家で、毎月1回万葉集の講義をしています。

さて、横の知識を増やしていくときに、一人の人間の脳みそはあまりたいしたことはできないと思うので、専門的な知識を持つ人を友人に持つがよい。わからない物があったら、

色々聞くことができるという人をたくさん持つておけばいい。先生が生きている間は聞くことはできるけど、先生は大概先に亡くなります。今の時代は亡くならなくても、認知症になります。認知症になると、いくら頭を使っている偉い学者でも昔の話はできますが、最近の話はできません。石川先生の場合も、いいお歳になってきたから、そこらへん氣をつけたほうがよい。まだ若干、数年あります。難波さんも 86 歳。90 まであと 4 年ある。こういう会話ができるってことはいいことですよ。会話ができなくなってくると、疑わなきゃいけないってことになってくる。朝、難波さんと話をした総合的直観力の話について、どういう解説をしようかと思って余分な話を入れました。知らない話が混ざっていて、右から左に抜けると出世しない。聞いている中で、何かおやっ？と思うのが一つでもあればいい。おやっ？と思ったら調べる。今の時代は便利な物があります。すぐ調べられます。中齋塾フォーラムの理事長さんは、おやっ？と思うと、すぐ下を向いて調べ始める。そうすると、書いてあるものと違いますよとか、調べた所によってすぐ答えてくれる。スマホはカメラや辞書、何かいろいろな物がいっぱい使えます。便利ですね。でも、スマホが出てきたことによって、通貨の消滅がさらに早まっている。

外国人労働者に対するお給料の支払いは、電子マネーでどうかと新聞に出ていた。労働基準法では、働いた人へのお給料は通貨をもって支払うことって決められているけれど、例外として振込みもよいとした。今の時代、外国人労働者は口座を作ろうとしても本人確認が厳しくて、なかなか口座が作れないがスマホ決済はできる。そちらに日本の国は切り替えようとしている。

読売新聞 (4/12)「賃金 電子マネー解禁へ」って書いてあった。「解禁へ」言葉が氣にくわない。新聞の書き方は本当によくない。何がよくないかというと、これは上毛新聞「厚生年金未加入、労働者 156 万人に」とある。見出しに「40 万事業所 加入逃れの疑い」と書いてある。「厚生年金は企業と従業員が折半する仕組みであるが、18 年 9 月末の時点では約 40 万事業所が加入逃れの疑いがある」けしからんというふうに書いてある。それで、厚生年金は標準的な収入で専業主婦の夫婦 2 人分で月額約 22 万 1500 円となるモデルケースで書いてある。もうこんなモデルケースの家族は少ないでしょう。大学出て 40 年間勤め続けて、奥さんは専業主婦というモデルでいくと 22 万 1500 円と書いてありますが、世の中どんどん変わっています。これ見て思うのは、私が 28 歳のときに会社をつくって、社会保険に入りたいと思っても断られた。保証人が要る、金がきちんと払えるか等々うるさかった。でも頼みこんで社会保険に加入させてもらった記憶がある。今は社会保険に加入するのは義務です。おかしい。お金が払えない事業者や入れない事業所を無理やり入れていく。何故か、政府に金が無いから国民に金を払わせたい。法人は入りたいのではなくて、入りたくないから入らないのです。入れない事情がある。だからこれは新聞が政府に対して忖度した書き方だと私は思います。政府の思惑に迎合しながら、こういう書き方をしている。これ完全に忖度です。無理やり入れさせようとしている。これは書き方が変だなと思っています。

電子決済の話から違う方向に進みましたが、スマホが出ることによって、国の運営の方法から、生活の仕組みからガラッと変わってしまいました。この間、渋谷にある変なカフェへコーヒーを飲みに行きました。そこは人間がいません。ミニの可愛いロボットが置いてあって、そこにお金を入れると、小さい紙切れが1枚出てくる。その紙切れをかざすとアームが動いてコップを取って勝手にコーヒーが入る。変なカフェだからそれでもいいのでしょう。変なロボットの系列店でロボットがフロントをしている変なホテルが浜松町とハウステンボスにあり泊ってみましたが、つくづく感じたのはスマホが使える高齢者は客ではない。タッチパネルがあって、自分でチェックインの操作ができない人は、お客じゃないと明確にメッセージを出していると私は感じています。世の中どんどん変わるから、使えない高齢者は少し待っていれば、あっちへ逝っちゃうからということが透けて見える。ところがどっこい今の高齢者は長生きしています。スマホは色々な機能が入っています。いくらでも使えますよね。通貨は消滅すると言い続けていましたけれども、まさかスマホが通貨を消滅させる大きな原動力になるとは思ってもいなかった。

我々は生きていながら色々な良いチャンスに恵まれることがあります。でもだいたい気がつかないものです。男性と女性は何か間違えて結婚するわけでしょう。最近のテレビを見ていると、若い芸能人やアスリートとかいう類の人の説明を聞いたりすると、あの人を何で気に入ったのですかと聞けば、顔が気に入りましたと言う。男も女も顔が気に入りました。頭の中身に惚れたなんて人はまずいない。みてくれに惚れたばかりです。だからだいたい錯覚です。でも、錯覚でも何でも結婚すると手続きをへて、それなりに生活をしなければいけない。結果として子供ができる。今はそういう錯覚する人たちが少なくなったから少子高齢化が進んでいるわけでしょう。オシドリはオスとメスでいくと、オスは綺麗でメスは地味。オスはメスに対して一生懸命に気を遣うわけでしょう。今の日本人ってどっちなのだろうと思います。女性が綺麗に化けるのが普通だと思っていたら、今は男も綺麗に化けるような時代に段々なっていますが、逆転すると少子高齢化が終わるかもしれない。この話は何十年も経ってからの話です。物の考えかたは、10年20年でまるっきりガラッと変わるという話。スマホによって物の考えかたが変わり、世の中の仕組みが変わりということを申しあげました。総合的直観力から余計なことばかり喋りすぎたので、レジメで話をします。

令和という文字を見て思ったことは、令和の令は命令という意味です。命令の令は、上の人から下の人間に命令をして下の人間は跪いて受け賜わるのが令です。和は、令に対して、素晴らしいと唱和している状況ですね。少し気分を変えて、大伴旅人で万葉集。日本の古典の中から取ったのは良いですね。ただ歌ではなく序文でしたが結構だと思います。先生方が解説されて、メディアで流している令和の解説は、とても良いイメージの言葉になっているから、もうそのまま後世に伝えていけばよいと思います。でもそれだと気がおさまらないから、いま皆様にお返しをしている葉書「天が日本を良い国にしよう」ということ

で、方向性を指し示した。それが、天から指し示された日本の行く末である。それを国民が聞いて、成る程こういう方向性か、これは素晴らしいものだ。平和が良いね。平成の時代は平和が続いたから、今後も平和が続いて和やかに、穏やかに、戦争に巻き込まれずにいくのが良いと皆さん思う。これは良いことだとういう物の中に入れて、私にすると分かりにくい文章にしました。分かりにくいというのは、自分で考えてくださいということです。人の話とか新聞は、自分で考えるためのヒントです。

新聞の見方、読み方も話しますと、今日若い人が来てくれたから説明します。一昔前の新聞は、木鐸（ぼくたく）と言われていました。木鐸は分かりますか。分からないなら、自分で調べてください。前は新聞を読んで、事実関係が載っていると思っていたし、時代はこう変わっているのかと思った。途中から、これは書き方が違うが、でも納得できる部分もある。書いてある事と、実際の事実は、どうなのだろうと思っていた。半分半分で読んでいました。だいたい書いてあることは半々で読もうということが、ちょっと前です。最近では、新聞で書いてある物は、基本的に信用しない。ヒントであると思っています。例えばここで、読売新聞（4/13）で「70歳以上 初の2割を超」昨年推計 総人口8年連続減とあります。これも新聞はこう書いてあるけれど、これは一体どこから調べたのかと思う。日本の統計調査に対して疑いがあるわけだ。出典はどこか。出典が政府だったら危ないと思えばよい。それほど日本の政府は信用できなくなっている。官僚がやることは、基本的にもうおかしくなっている。官僚機構が病気になるから、どうにもならない。よく大企業病という言葉があります。大企業病になると会社は危ないといえます。行政機構も官僚病です。官僚の人たちは、だいたい上から目線。で、言質をとられないようにする。まったく、よくない体質になっていると思う。私が官僚と色々やり合うときに、そう感じます。この間、官僚の文句を言っていたら、清水先生が官僚も結構良いのがいますよと、そっちとも会ってくださいと言いました。まだ会ってないけども確かに良い人もいます。前は全部もう危ないと言っていました。最近では、ちらちらと良い人もいるという言いかたに変えています。これは経済人も政治家も官僚も学者もそうです。話がずれたが、新聞の読み方は今の時代はヒントです。おやつ?と思うものがあつたら自分で調べる。自分で調べるときに、でき得る限り、書物だったら原点にあたること。今ある物で一番、間違いのないと思われる物を探すこと。自分の足で歩くこと。行ってみること。さっき話した変なカフェも同じで、これからの時代を予見するものを実体験させるので行く。浜松町やハウステンボスの中にある変なロボットホテル。これは実体験して見ると、近未来が見える。実感できる。それから「令和」というものを自分で実体験していこうと思ったので、大宰府へ行き、太宰府の情景をみて、坂本八幡宮に参拝をする。ということは、今ある令和の状況を体現している土地へ出掛けて実体験をしてくると、はっと悟る部分が生まれるのです。だから本で読んでいるだけではなく、一見は百聞に如かずということで体験する。いくら横の知識を増やしていても、自分で出掛けて実体験をすると、はっと思うのです。はっと思った瞬間に、たくさんの知恵が生まれる。ということでヒントを見つけたら、実体験

をすることです。

この間、新 1 万円札が澁澤栄一と発表になったでしょう。あれ見た瞬間に思ったのは、昭和 21 年 2 月 17 日金融緊急措置令。続けて財産税なるものが出ました。あと何があったかな。そのちょっと後ですが都会地転入抑制緊急措置令。

日本が戦争に負けて、借金が沢山あるから借金返済のために、国民で沢山お金を持っている人に富裕税をかけた。一般庶民でも 2 割は取る。日本の国はお金が少ないから税金たっぷり取らなきゃいかんという時代があったので税金を国民から取った。いま非常に似た話がある。終戦直後は国が疲弊して金が無いから、国民からも凄いの税金を取ったと話しました。日本がこれから経済破綻を起こしたら、日本はどう生きていかなければならないかということ、平成 14 年 2 月に国会で民主党五十嵐文彦議員（当時）と柳沢金融再生担当大臣（当時）が発表しています。そのときに、国家公務員・地方公務員は給料 3 割カット、ボーナス全額カット。100 万円の収入の方でも税金は取る。ちょっとでも収入のある人は税金を取ると、柳沢金融再生担当大臣は国会で答弁しています。国民から税金をめちゃくちゃ取るよという話を国会で発表しています。経済破綻を起こしたときは、こうやると話しています。それで澁澤栄一さんが新 1 万円札で出た。頭の中にぱっと浮かんだのは、終戦直後に預金封鎖をしたのは、澁澤栄一の孫が大蔵大臣の時ではないかと。澁澤栄一が新 1 万円札になったということは、また同じことをやる。

日本が経済破綻を起こしたときは、銀行封鎖をする。その時のお金は使えない。今でいくと、夏目漱石は使ってはいけない。今度は澁澤栄一のお金でないと駄目。たんず預金は使えなくなりました。銀行の預金は全部封鎖しました。下ろせるのは家族が 1 週間生きていける最低限のお金だけということです。ちょっとイオンの話を最後に入れておこう。これからの日本は、激動・混乱・めちゃくちゃ。それをうまく活用したのがイオンという会社です。昔は岡田屋といった。終戦直後、お店は四日市にあったが空襲で焼け、自分の家も何も無くなった。無くなった後に必死になって今ある手持ちのお金を全部商品に変えた。当主は色々な人の話を聞き、ドイツで経済破綻が起きたことを学んでいた。日本もこれから経済の破綻が起こり得ると思っていたので、12 月まで店の再建のために材木を掻き集めていた。そしたら 2 月に銀行封鎖があった。銀行封鎖があった時、封鎖預金を担保にして、銀行から借金をもつてきた。その借金で、また商品を買って漁り、3 月にお店をオープンした。オープンした時、旧札は使えなくなっていました。従って売上はどんどん新札で入ってきた。それを基にして、お店が大きくなる礎ができた。そして大学を卒業したばかりの弟の岡田卓也を社長にして、今のイオンに成長していきます。

混乱怒涛の時代がこれから始まります。今年はそれが十分起きる可能性がある時代に入りました。これからは、こうなっていく、そして対策は、どうしていくかということも話していこうと思っています。

再開いたします。なるべく脱線しないようにします。新聞の読み方は、基本的にヒントが書いてあると思えというのが一番でしょう。2番目は実際に調べるということでしょう。実物を見る。今の場合でいけば、先程の金融緊急措置令のことを書いた新聞が国会図書館にあります。自分で出掛けて調べればいい。そうすると実体験で感じるから。今のロシアじゃなくてソ連の酷い時は、レジ打つ人は雑談ばかりしながら、お客が行列で並んでいても平気というのがソ連時代の物の売りがただったという実体験の記憶があるが、それと同じようなことを国会図書館の受付はしていた。でもこれは、自分で体験するほうが良いという話。

西郷隆盛のイメージはどうでしょう。太っている人、痩せている人。

ー太っている。

沖永良部島に行ってください。西郷さんが痩せ細っている像がある。イメージが変わります。

自分で動いて、考えて、それで自分で判断する。判断するときには、本質・大局・歴史その3つでものを見る。

新聞を読むときに判断の3原則というのがある。例えば、新元号の「令和」という文字を考えると、元号というものの本質は何かと考える。元号の本質を考えることは、日本の国しか今は元号がないのは何故かと考える。大局で見ると、現在の世界は何か国ありましたっけ。

酒井理事ー 195か国の元首をお迎えすると言っていました。

増えた。統計の取り方でやっぱり違う。そういう話になると矢野先生が専門です。矢野先生という方は、矢野経済研究所の創業者の一人です。聞いたことありますか？保険をやるなら、そういうことが必要だと思うから、矢野経済研究所を調べてごらんください。調べるのがいっぱい増えて大変だな。

令和は元号です。元号というものの本質は何だろうと考えたら、大局で見て、大局は、いろいろな立場で見るということです。それぞれの国の立場で見る。いろいろな立場で見たときに、大局観は高い所に登って見下ろすという感覚で見る。鳥瞰図でものを見る。大局的に見ていくと、世界各国で元号を使っているのは日本だけだなというのが見えてくる。では何故かという、歴史を見て、元号はどこから始まったのか。中国で始まった。では、どういう国に波及していったのか。なぜ日本だけ残っているのかを見ていく。そうすると令和を判断するとき、最初に本質は何かを考える。次に大局も歴史も見なきゃい

けなくなってくる。本質は目的です。どういう目的で令和という文字が使われたのかを考える必要がある。という考え方をするのです。

判断の3原則は、自分の身近なことを考えるときにも使える。それから、学問的なことを考えるときにも使える。

保険を相手に進めるときに、相手がどういう保険を要望しているのか。相手の立場に立ってみないと分からない。相手がどういう位置にいて、どういう仕事をしているかを見ないと分からない。その人の歴史を見て、どういうところで痛い目にあったのか。どういうところで良い思いをしたのかは、ずっと歴史を見ていかないと、その人間の満足する部分が見えない。そうするとこの保険を掛けるという目的は何なのかが見えてくる。例えば、倒産で自殺する寸前になった人が保険を掛けたいと言う。自殺をして保険金を取ろうというのが目的という場合もある。何が目的でというのを詰めていくと、その人間が、人間性の本質に繋がるから、そういう見方をする。

判断の3原則は、森羅万象、ものを考えるときの基準になります。

《論語の視点》 衛霊公第十五 39～40

【三九】子曰く、道同じからざれば、相為に謀らず。

政治家で考えましょう。いま安倍さんが首相だけれども、次の首相は誰か。自民党は自民党の人間を総理大臣に担ぎたいと思う。野党は別の人を出したいと思う。そうすると、「道同じからざれば」同じ目的、同じ志で、この人を総理大臣にしたいと思う。そういう同志が相集まって、自民党ができているのであれば、その人を押していけばいいのだけれども、自民党の中もごちゃごちゃいますから。ただ、同じ目的、同じ志で行かなければ、「相為に謀らず」お互いに親身になって相談することはできない。

小沢さんが、またもう一回とやっています。野党を結集して、未来政党を作るとか言っているけれども。あの方が一番問題になってしまったのは、東日本大震災の時に現地に入らなかった。地元がそれで離れた。政治家は何かあったら自分の命をなげうって現地に行くことが自然に求められるけれども、現地に行かなかった。それでも小沢さんを総理に持つていくべきだという声はまだある。日本という国は面白いですね。

【四〇】子曰く、辞は達するのみ。

これは外交辞令に関してです。自分が国を代表して相手の国に言った場合に、相手には

つきり伝えるのが必要である。はっきり言わなきゃ駄目だと理解すればいいでしょう。

最近のゴーン事件で見ます。今、私はこのように見えています。日本・アメリカ連合対フランスの戦い。ゴーンという人は、脇が甘くて、とぼっちりをくって生贄になった。脇の甘さは、金額が大きすぎる。税務署も脱税する人たちが大きな金額だと、もう目の色変えて追っかける。ほんのちょっとだったら追っかけやしない。赤字でどうにもならない潰れそうな会社にはこないよね。国も同じ。ゴーンさんは税金どこに払っているのだろう。知りませんか？

日本の場合は、日本で稼いでいる人は日本で税金を払えっていう。けども、フランスならフランスにずっと住んでいれば、フランスで税金を納める。よその国で稼いでもフランスに納めてくださいと。どれだけ住んでいるかによって決める。だからゴーンさんはあちこち動いているわけです。きちんと定まった国にいるわけではない。移動中。旅行中。生涯の旅行者という言い方になっている。ゴーンさんは嵌められたと私は思っているけれども、嵌められるだけの材料があったから嵌められた。そして金額が大きすぎた。誰だっと思うでしょう。お給料たくさん欲しい。身内に良い顔をしたい。美味しい物を食べたい。贅沢したい。ただ金額を大きくしてやっただけ。それで、良い家に住み、結婚披露宴も派手なことをやりたいからやった。ただ問題は、会社に付けたということです。最近は何も替えて言葉が大きくなっています。

ゴーンさんで「辞は達するのみ」というのは、いまゴーンさんは黙秘権を使っています。4回逮捕されて最初の3回はたくさん喋って裏とられて材料もいっぱい出てきた。メディアが伝えているからいいですね。奥さんのキャロルさんは、自分の旦那を擁護するために、裁判所に出頭して証言をした。その援護射撃で「私は無実です」と言って、後はずっと黙っている。あれだけビデオに流して喋った人間が喋らないということで、辞を達している。けっこう頭良い。広中弁護士も頭良いと思うのだが、黙秘権を使って雄弁に語っていると私は思う。これは「辞を達するのみ」を実行していると見えます。今の図式で、日本・アメリカ連合対フランス。それに対して、中国が参戦してきている。すると今度はロシアも参戦するよと旗印を掲げている。イギリスは、日本・アメリカ連合にすり寄ってきている。前ちょっと申しあげましたね。そういう各国の図式が大局で見ていると見えてくる。するとお金はどう動くかという見方をすればいい。お金は税金と工場。税金をどこで取るか。ゴーンさんは全部表面化してやられた。あとは訴訟も起こされるでしょうから、今まで稼いでいた分は吐き出さなきゃいけない。浮浪者になるというふうな流れが見えるから、必死になって止めようとしている。それから日産の工場をイギリスはフランスに持っていかれると嫌だから、イギリスはアメリカ・日本に寄ってきて自分の所を守ろうとしている。中国はゴーンの銅像を作りたいとかいっていたわけだから、銅像を作って、日産・三菱の工場を持ってきたい。大きい工場をつくることによって政権の浮揚がはかれる。ロシアだって似たような話になっている。ということで、仕事をする場所を作り、実際に労働する

人がそこに勤めることによって、自分の政権が維持できる政治家の思惑がゴーン事件によって透けて見えるというふうに私には見えています。

「辞は達するのみ」というのは、雄弁に話をするときは、色々な装飾を使わないで、直言がよいでしょう。相手にはっきり伝えればいい。相手にはっきり伝えることが肝心であるということです。それで、何も言わなくても、何も言わないことが雄弁に語っていると同じ。口を開いて語るだけではなくて、口を真一文字に結んでいるだけで、相手に自分の意志を伝えるのは凄く効果があると捉えればよい。論語の視点は以上で終わりです。

《時事評論》

働き方改革の話をしましたけども、日本の国は、新聞を見ていると実に色々な物が出てくるから、ヒントには事欠かない。見ていると楽しい、面白い。これは今日の新聞。この東京電力福島第一原発では、全町避難が続く福島県大熊町の一部で避難指示が解除されたのは、原発立地自治体で初めてであると書いてある。そうしますと、放射能測定マップ、政府は出していません。政府が出さない。汚染という状況が知りたいので民間の団体が調べて、こういうふうに乗っています。これちょっとパラパラって表面だけでも読んでください。日本は放射能に汚染されています。そういうふうに正面から向き合えないと怖い。特に韓国は日本の水産物禁輸で勝利をしたわけだから。日本の水産物は売れないというのが明確になった。私は会社でイノシシ・シカを捕っていますが、群馬県はイノシシ・シカを捕っても食べることはできません。放射能で汚染されているから。

毎月、福島に出掛けていますが、色々な話を聞きます。今、補償金を受け取ったところや、人がどういう状況になっているのかをつぶさに見たいと思って出掛けています。日本は放射能汚染された国という自覚を持っていないと、外国の人と話をするときにどうしても話が合わなくなる。日本人は、忘れるからと思っています。

それから働き方改革で「30万円罰金」とありますが、あれ無理ですね。取れないと思います。調べてみました。労働基準法をベースにしてやる罰金ですから警察に確認を取りました。いま流しているのは、今回の働き方改革で、労働基準監督官が30万罰金を取ることは可能です。ただそれは、裁判をして確定をしてという手続きを経てからでない駄目なので、私が思うのは、警察と連携して警察が立ち入りをして、これは内部告発があったから調べた。それで間違いなく残業オーバーで休みもとれてない、有給休暇もあげられてない。じゃあ反則金切りますよって格好で警察が実力行使をしたら取れないことはないけれども、可能性はどこまであるか。かなり難しい。いずれにしても、これによって直ぐ潰れるってどこまでは、いかないなって気がしています。

それから、ご譲位に関していっぱい出ています。平成の大礼ね。私は今日これを持って

きた理由は、ここに書いてある物をご覧いただきたいと思ひまして、今上天皇が即位されたときは各地で反対集会、ゲリラ多発。皇居に向かつて、いわゆる大砲が撃ち込まれた。そのときは14発。東京都内上空に迫撃弾が飛んだ。40ヵ所でテロ、ゲリラが多発という記事が出ています。ご夫妻で沖縄に行ったとき、火炎瓶投げつけられました。けっこう報道されました。平成が始まったときは、天皇制反対がいっぱいありました。今は逆になりました。時事評論でいう、この令和という部分で、これからの時代は、じゃあ自分はどのように生きるのかを考えるのは、とてもよい区切りになると思ひます。

今日のテーマの御代替（みよが）わりにも触れなきやいけない。御代替わりは今上天皇が次の天皇に代を変わられるということですが、甚だしきは、代替わりという表現をする方がいる。新聞でもあります。でもこれは御代替わりと読みます。皇室に関してはちょっと違う見方、違う言葉があるのだから覚えておくと思いいます。先程の終戦直後でいくと、皇室経済法ができて、皇室の財産は殆ど取られてしまったとありますので、天皇制に対して平成の始まりは疑問に満ちた声が多かった。今はまるで逆になった。天皇陛下のお言葉があつてからということ。これを機会に、御代替わり・令和・元号というものを考えて、自分自身はどうこの時代生きていこうかとお考へいただきます。終了という札が出ました。本日はこれで終了とします。有難うございました。

《紹介書籍》

『皇位継承—今上天皇の御譲位と御代替わりの意義』新田均著 明成社

《恒例の質問》

- ・最近が良い日が続いた。
 - ・最近、嘘はつかない。
 - ・最近是有難うと言ひ、有難うと言われることが多い。
 - ・今朝でもいい。健康法、実践し続けている。
 - ・自分磨きをしていますね。
 - ・昨晚寝るときに、明日を過去形でイメージした方。
- 時間をちょっと超過して、すみませんでした。有難うございました。